令和元年度
第１回ヒアリ対策関係省庁連絡会議

日時：2019 年（令和元年）6 月 4 日（火）14:00～

場所：中央合同庁舎 7 号館 1415 共用会議室

議題：

（１）2018 年度の対応状況について

（２）2019 年度の対応について

（３）その他

資料一覧

【配付資料】

出席者名簿

資料 1　　2018 年度のヒアリ対策について

資料 2　　2019 年度のヒアリ対策について

参考資料　　ヒアリの防除に関する基本的考え方　Ver.2.0

出席者名簿

○内閣官房
　小笠原　靖　（内閣官房副長官補付参事官）

○消防庁
　堤　弘幸　（救急企画室推進係係長）

○外務省
　黒岩　亮　（中国モンゴル第二課主席事務官）

○財務省
　小林　昌弘　（関税局業務課税関相談官）

○文部科学省
　大塚　和明　（初等中等教育局健康教育・食育課課長補佐）

○厚生労働省
　平木　孝佳　（大臣官房厚生科学課健康危機管理・災害対策室係長）

○農林水産省
　久保　牧衣子　（大臣官房環境政策室長）

○経済産業省
　金井　伸輔　（貿易経済協力局総務課課長補佐）

○国土交通省
　渡邉　敬　（総合政策局環境政策課室長）
　神田 真由美　（総合政策局環境政策課課長補佐）
　田中　一宏　（港湾局総務課課長補佐）
　山口　茂彦　（航空局総務課危機管理室長）

○環境省
　堀上　勝　（自然環境局野生生物課長）
　北橋　義明　（自然環境局野生生物課外来生物対策室長）
　八元　綾　（自然環境局野生生物課外来生物対策室室長補佐）
　深谷　雪雄　（自然環境局野生生物課外来生物対策室室長補佐）

資料1

対応方針　2018（平成30）年度のヒアリ対策について

2017年度のヒアリ対策の経験を踏まえ、港湾等での水際対策やヒアリ定着国での輸出時における対策など、ヒアリの侵入・定着防止のため、最大限の取組を行うべく、自治体や事業者との協力の下、関係省庁が一体となって以下の対策を総合的に推進。

1．港湾等における水際対策

ヒアリ確認地点での防除【環境省、国土交通省】
- 発見個体はすべて殺虫処分し、確認地点の周辺2kmにおいて確認調査を実施
- 2017年度確認地点でのフォローアップ調査を20カ所で実施

港湾等の調査【環境省、国土交通省、農林水産省】
- 中国、台湾等から定期コンテナ航路を有する68港湾での確認調査を初夏（６月～７月）と秋（10月～11月）に２回実施。国際線が就航する30空港で確認調査を実施
- 植物検疫を実施する156の海空港で検疫時の目視調査・同定・報告を実施
- 2017年度に緊急対策工事を68港湾において実施するとともに、ヒアリが確認された港湾において、ヒアリの定着を防止するための舗装改良（コンクリート舗装化等）に対する支援制度を2017年度補正予算において創設。引き続き、港湾におけるヒアリの定着防止対策を実施

2．自治体や事業者の取組促進

自治体との連携【環境省】
- 都道府県に対し、発見時の簡易同定と事例報告、市町村への情報周知と連携体制の確保等を要請

自治体の取組支援【環境省、関係省庁】
- ヒアリ同定・防除マニュアル等を通じた普及と新たな知見を踏まえた改定を実施
  ※現時点では「未定着」の段階ではあるが、今後に備え、内陸部での発見時の考え方を追加

事業者等への協力依頼【環境省、国土交通省、経済産業省、財務省等】
- 海運業界団体等に対し、船会社やコンテナ荷主等へのヒアリ対策の周知等を要請
- コンテナの輸入等に関わる事業者団体（600超の関係団体）に対し、ヒアリ生息地からの出荷時や日本の港湾での荷揚げ時のコンテナ開封時のコンテナ内外の確認、ヒアリの疑いのあるアリ発見時の連絡や駆除の対応に係る協力依頼文書を2018年３月～４月に発出（新規）
- 現場作業者向けに分かりやすく具体的な対処を示すチラシ等を作成（新規）

３．国際連携

・第19回三カ国日中韓環境大臣会合（TEMM19）で確認されたヒアリ対策の重要性を踏まえ、第5回日中韓生物多様性政策対話(5/30-31)、TEMM20(6/23-24)において三カ国間の情報共有を実施、取り得る対策について検討
・専門家による中国広州市ヒアリ研究センターでの意見交換・現地視察を実施（4/25） （新規）
・中国政府にコンテナ内の確認・殺虫餌設置等の対策へ協力を依頼（協議継続）

４．国民に向けた情報発信

国民への情報発信【環境省、文部科学省等】
・正確な情報発信と国民の不安解消のため、ヒアリ相談ダイヤルを継続して設置
・WEBサイトでの情報発信を既存のヒアリの確認状況等に加え、注意すべきポイントの分かりやすい解説等の新たなコンテンツを追加
・国民向けに新たな情報を盛り込み、既存のパンフレットを大幅に改定（新規）
・子供向けに分かりやすいチラシを作成（新規）

５．基盤的取組

技術開発【国立環境研究所】
・ヒアリの迅速な確認に活用可能なＤＮＡ検出キットの試行を夏までに実施。その後、改良を加え、2019年４月から希望機関への配布を開始（新規）
専門家会合の開催【環境省】
・対策の強化に必要な知見の集約（10/19、1/17に開催）
体制の強化【環境省】
・ヒアリ確認の多い地方環境事務所に外来生物防除専門官（計５名）を2018年４月に配置（新規）

国内でのヒアリ確認の経緯

2017年6月以降、38事例（14都道府県）の報告（2019年5月現在）

年度	番号	確認地点	確認日	確認状況	個体数	女王等の有無	出港地
2017	1	兵庫県尼崎市	6/9	事業所敷地内：コンテナ内	500以上	女王	中国・南沙港
	2	兵庫県神戸市（ポートアイランド）	6/18	コンテナヤード：地面の舗装の割れ目	100以上	－	－
	3	愛知県弥富市（名古屋港）	6/30	コンテナヤード：コンテナの外壁	7	－	中国・南沙港
	4	大阪府大阪市（大阪南港）	7/3	コンテナヤード：地面の舗装の割れ目	50	女王	－
	5	東京都品川区（東京港）	7/6	空コンテナヤード：コンテナ内	200以上	幼虫、サナギ、卵	中国・三山港
	6	愛知県飛島村（名古屋港）・愛知県春日井市	7/10	コンテナヤード：コンテナ内・事業者敷地内	約17	－	中国・南沙港
	7	神奈川県横浜市（横浜港）	7/14	コンテナヤード：地面の舗装の割れ目	700以上	幼虫、サナギ	－
	8	福岡県福岡市（博多港）	7/21	コンテナヤード：地面の舗装面の割れ目、コンテナ内	約300	－	中国・南沙港
	9	大分県中津市	7/24	事業者敷地内：コンテナ内	約20	－	中国・高欄港
	10	福岡県福岡市博多区	7/27	事業者敷地内：コンテナ内	約30	サナギ	中国・蛇口港
	11	愛知県弥富市（名古屋港）	8/4	空コンテナヤード：コンテナ内	約100	－	中国・廈門港
	12	岡山県倉敷市（水島港）	8/9	空コンテナヤード：地面の舗装面上	200以上	女王	－
	13	埼玉県狭山市	8/16	事業者敷地内：荷物	1	女王	中国・黄埔港
	14	広島県広島市（広島港）	8/24	コンテナヤード：トラップ、その周辺の地面の舗装面上	131	－	－
	15	静岡県静岡市（清水港）	8/27	コンテナヤード：トラップ、その周辺の地面の舗装の継ぎ目	600以上	女王、幼虫、サナギ、卵	－
	16	愛知県名古屋市（名古屋港）	9/1	事業者敷地内：コンテナ内	約1000	女王	中国・天津港
	17	神奈川県横浜市（横浜港）	9/5	空コンテナヤード：コンテナ内	約60	－	ジブチ共和国・ジブチ港（中国・寧波港経由）
	18	福岡県北九州市（北九州港）	9/15	コンテナヤード：トラップ	7	幼虫、サナギ	－
	19	岡山県笠岡市	9/18	事業者敷地内：荷物	1	女王	中国・廈門港
	20	愛知県弥富市（名古屋港）	10/2	コンテナヤード：緑地	2	－	－
	21	神奈川県横浜市（横浜港）	10/5	コンテナヤード：トラップ	2	－	－
	22	京都府向日市	10/14	事業者敷地内：コンテナ内	約2000	女王、サナギ、卵	中国・海口港
	23	静岡県浜松市・愛知県弥富市	11/6	事業者敷地内：積荷・バンプール：空コンテナ内	約200	－	中国・中山港
	24	広島県広島市（広島港）・広島県呉市	11/9	事業者敷地内：積荷・コンテナターミナル：空コンテナ内	73	－	中国・中山港
	25	広島県呉市	11/22	事業者敷地内：積荷	1	－	中国・中山港
	26	広島県広島市（広島港）・広島県呉市	11/22	コンテナターミナル：空コンテナ内・事業者敷地内：積荷	7	－	中国・中山港
2018	27	大阪府八尾市	5/10	個人が購入した工業製品の梱包内	1	女王	中国・香港
	28	大阪府大阪市（大阪南港）	6/15	コンテナヤード：コンテナ内	約30	－	中国・廈門港
	29	大阪府岸和田市／大阪市（大阪南港）	6/16	事業者敷地内：コンテナ内及び積荷／コンテナヤード：コンテナ内	約100 ／2,000以上	女王、サナギ	中国・蛇口港
	30	愛知県飛島村（名古屋港）	7/5	事業者敷地内：コンテナ内及び積荷周辺	約20	－	中国・廈門港
	31	愛知県瀬戸市	7/20	事業者敷地内：コンテナ内	約350	女王、サナギ	中国・黄埔港
	32	千葉県成田市（成田空港）	7/31	空港内貨物上屋：積荷	約160	－	アメリカ・ダラス空港
	33	広島県広島市（広島港）	8/13	コンテナヤード：地面	約100	－	－
	34	静岡県静岡市（清水港）	8/20	コンテナヤード：トラップ	2	－	－
	35	愛知県小牧市/弥富市（名古屋港鍋田ふ頭）	8/23	事業者敷地内：コンテナ内 /コンテナヤード：コンテナ内及び周辺	約70	－	中国・南沙港
	36	北海道苫小牧市（苫小牧港）	8/23	コンテナヤード：トラップ ※夏季港湾調査での確認	2	－	－
	37	大阪府大阪市（大阪南港）	8/29	コンテナヤード：コンテナ外部上面	約20	－	中国・蛇口港
	38	愛知県愛西市/飛島村（飛島ふ頭）	2/18	事業者敷地内：積荷周辺 /コンテナヤード：コンテナ内	約30		フランス・フォス・シュル・メール港

資料２

2019（令和元）年度のヒアリ対策について

○2017年6月に国内で初確認されて以降、３８事例が報告（2019年5月現在）
　※2017年度は6月～11月に26事例、2018年度は5月～8月に11事例と、2月に1事例
○確認できた個体は、すべて駆除
○国内でヒアリの定着を示す状況は確認されていない

【2019年度の取組概要】
○水際対策を徹底するため、ヒアリ確認地点での防除や全国港湾等での確認調査を継続
○自治体や関係事業者、専門家、海外の定着国・地域との連携を継続・強化
○政府として正確な情報発信を継続し、適切な対応を国民に呼びかけ

ヒアリとは

　南米原産のアリ。刺されるとやけどのような激しい痛みが生じる。体長は2.5mm～6.0mm。

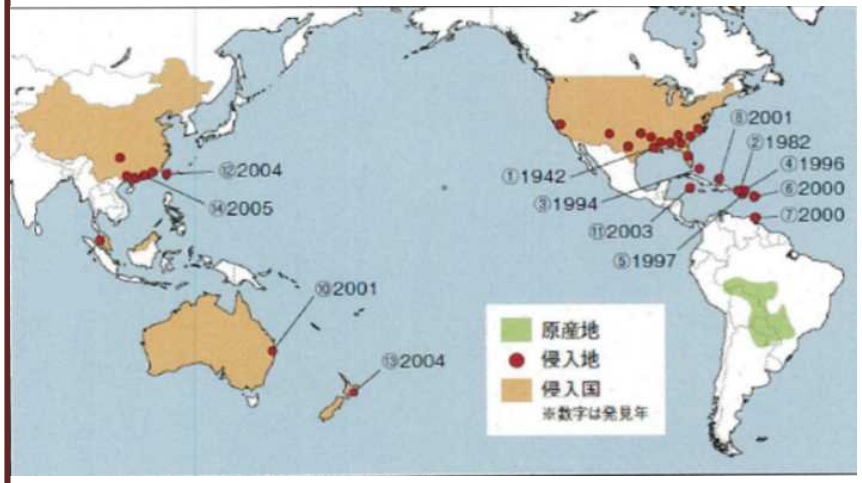
　毒性が強く、毒針で刺されるとアレルギー反応により死に至ることもある。

　外来生物法に基づく特定外来生物に指定されており、**生態系**、**農林水産業**、**人体への被害**が懸念されている。

全体は赤茶色で腹部が黒っぽい赤色

ヒアリが作る大きなアリ塚

ヒアリの分布状況



原産地は南米。オーストラリア、中国、台湾など環太平洋諸国・地域では2000年代から急速に分布が拡大。

2019（令和元）年度のヒアリ対策の実施方針

対応方針

2017年6月の国内初確認以降の経験を踏まえ、従前の取組を継続し定着を防止することを重点としつつ、持続性を見据えた実施内容とすべく、自治体や事業者との協力の下、関係省庁が一体となって以下の対策を総合的に推進。

１．水際対策の徹底

ヒアリ確認地点での防除【環境省、国土交通省】
・発見個体はすべて殺虫処分し、確認地点の周辺２kmにおいて確認調査を実施
・過年度確認地点でのフォローアップ調査（確認後２シーズン）を実施

港湾等の調査【環境省、国土交通省、農林水産省】
・中国、台湾等から定期コンテナ航路（休止航路を除く）を有する65港湾での確認調査を年２回（６～７月、９月～11月）実施。国際線が就航する31空港で確認調査を実施
・植物検疫を実施する156の海空港で検疫時の目視調査・同定・報告を実施
・ヒアリの定着を防止するための舗装改良（コンクリート舗装化等）に対する支援制度等を通じ、引き続き、港湾におけるヒアリの定着防止対策を実施

持続的な水際対策の検討【環境省】新規
・現行の調査対象を含めたリスクの精査、関係者との役割分担、重点化、実施方針を検討

２．定着防止対策の強化　新規

野生巣早期発見手法の検討
・定着につながる野生巣の早期発見のためのモニタリングの手法や実施体制を検討

野生巣発見時の対応の検討
・定着につながる野生巣発見時の初動の考え方整理、連携体制を構築

３．元栓対策の強化

国際連携
・中国との連携・協議を継続
・日中韓三カ国環境大臣会合、生物多様性条約等の枠組みを活用した国際連携の強化　一部新規

事業者による非意図的侵入リスクの低減
・コンテナ清浄化等の技術の実用可能性を検討　新規

＊各取組を実施するにあたり、引き続き①自治体・事業者との連携、②専門的知見の活用、③国民への情報発信　を重視